

待機児童解消に有効な小規模保育の考えは

認可基準に必要な連携施設の確保等について検討していきたい

高津 みどり 議員(公明) これまで市が行った待機児童解消に向けた取組について聞きたい。



▲保育コンサルジュによる相談対応

面的な定員増を図ったほか、保育コンサルジュによるきめ細かな相談対応など、施設整備以外の施策に積極的に取り組んでいる。
議員 待機児童数については解消されない状況が続いており、特に0歳から2歳児においては早急な対策が必要と考える。
そのような中、小規模保育は2歳児までの受け皿として大変有効なものと思うが、小規模保育に対する市の考えを聞きたい。

性的マイノリティに関する理解を深める必要がある

教員研修の内容に添ってNPOの協力も検討しながら理解を深めていきたい

須山 卓知 議員(市友) 性的マイノリティに関する調査では、7.6%が当事者であるという結果が出ており、身近な問題と言える。そのような中で、差別をなくし、人権を確保・保障する努力が必要と考えるが、性的マイノリティの差別解消に向けた市の考え方を聞きたい。
政策総務部長 意識啓発に取り組むとともに、国の動向を注視しつつ、他の自治体の状況等を踏まえ、取組を進めていくべきであると考えている。

住宅確保要配慮者向けの進賃貸住宅登録制度を

PRや活用を図っていく

田村 智恵美 議員(ネット) 市では、民間賃貸住宅への円滑な入居を促進する居住支援協議会について、創設も視野に入れ検討するとしていたが、その後の検討状況を聞きたい。
生活環境部長 現在は居住支援協議会の創設を視野に、東京都居住支援協議会のオプザバーとして参加している。本市としても国の各種施策がより具体化し実行されていく中で、居住支援の取組が効果的なものになってくると捉えている。

議員 若年層における住まいの貧困対策も喫緊の課題であり、低所得の若者たちへの支援体制が必要と感じる。
今後は空き家の活用も含め、住宅確保要配慮者向けの賃貸住宅登録制度を進めていくべきと思うがどうか。
生活環境部長 住宅確保要配慮者の居住支援策として、要配慮者向けの賃貸住宅を検索できるよう、住宅セーフティネット法における登録制度のPRや活用を図っていく。

けやき並木通り側に整備されるだれでもトイレに男子用小便器を併設できないか

併設するための新たな場所の確保は難しいものと考え

議員 けやき並木通りに面したエスカレーターの南側に整備されるだれでもトイレについては、トイレの回転率を上げ、衛生面の配慮を行う視点からも、だれでもトイレ内に男子用の小便器を併設できないか。
都市整備部長 併設するための新たな場所の確保は難しいものと考えている。
結城 亮 議員(共産) 府中駅前の京王ストア移転跡に整備を予定しているトイレについて、利用できる時間は新規店舗形態の営業時間を想定しているとのことだが、少しでも利用しやすい時間帯に設定することはできないか。
都市整備部長 市と京王電鉄株式会社で共同で運営することから、新規店舗形態の営業時間内が条件となっている。今後は、使用開始に向けて、市民が快適に利用できるよう



留学生支援のプラットフォームづくりを検討してはどうか

先進市の取組を参考に研究していきたい

西宮 幸一 議員(市友) 東京外国語大学、東京農工大学の両大学が所在する本市においては、在住・在学する留学生に対する支援が重要と考

えるが、市内の大学における在留留学生数及び市内在留留学生数について聞きたい。
市民協働推進部長 在留留学生数は、学部・大学院の留



▲外国籍市民向けの情報誌「府中インフォライン」

学生、研究員等を含め、平成29年5月1日現在で1033人で、在留留学生数は、8月1日現在で975人である。
議員 長崎県佐世保市には、国際社会で活躍できる人材を育成することなどを視野に入れた佐世保地域留学生支援交流推進協議会がある。本市でも行政や生活支援に関係する組織・団体等が参加した留学生支援のプラットフォームづくりを検討してはどうか。
市民協働推進部長 先進市の取組を参考に、企業や各団体

アール・ブリュットの啓発推進に向けて

展示内容や開催趣旨等により連携すべき部署を検討し支援に努めていくべきと考える

西埜 真美 議員(ネット) 正規の美術教育を受けていない創造性あふれる芸術作品を意味するアール・ブリュットについて、市の考えを聞きたい。
文化スポーツ部長 アール・ブリュットを障がい者アートと捉えるのではなく、芸術性に富んだ作品と捉えており、あらゆる市民の文化活動の啓発推進については、関係部署と連携して進めていきたい。
議員 障がいのある方における社会参加の促進や芸術作品が評価されることは、本人だ

けでなく、その家族や支援者への大きな力になると思う。そのような中で、市は啓発推進に向け関係部署と連携を図ることだが、どのような連携が必要と考えているか。
文化スポーツ部長 展示内容や開催趣旨等により連携すべき部署を検討し、市民活動への積極的な支援に努めていくべきと考えている。
また、発表の場を広げる活動を行う団体と協働を図りながら、展示活動の活性化を図っていきたい。

熱中症対策として期待されるバリアフリー対応の冷水機を公共施設に導入する考えは

施設の用途や特性などを総合的に考慮した中で検討する必要がある

遠田 宗雄 議員(公明) 熱中症対策として期待される冷水機の設置について、市の認識を聞きたい。
また、市立小・中学校における冷水機の設置状況は、
福祉保健部長 冷水機については、誰もが利用できる公共施設などに設置されていることが熱中症対策に効果的であると認識している。
教育部長 設置状況については、冷水機を設置している学校はなく、全校集会等で児童・生徒に対し、水分補給を行うことなどを指導している。
議員 マイポトル運動の推進や避難所機能を持つ学校体育館などに冷水機を設置することが、熱中症の予防につながるものと考えている。
今後は、ユニバーサルデザインを推進する観点からも、公共施設にバリアフリー対応の冷水機を導入することが望ましいと思うがどうか。
福祉保健部長 施設の用途や特性などを総合的に考慮した中で検討する必要があるもの

と考えている。
市民協働都市宣言施行から3年、今後の市の体制について